



YAM:若年成人平均値 (20~44歳)

注1) 本ガイドラインは18歳以上を対象とする。

注2) 脆弱性骨折の定義は原発性骨粗鬆症と同一である。

注3) 骨密度測定は原発性骨粗鬆症 (2000年度改訂版) に準ずる。

注4) 1日平均投与量

注5) 1日10mg以上の使用例では骨密度値が高くても骨折の危険性がある (骨折閾値 %YAM90)。

注6) 高齢者では骨折の危険性が高くなる。

・ 一般的指導

生活指導、栄養指導、運動療法は原発性骨粗鬆症のものに準ずる。

・ 経過観察

骨密度測定と胸腰椎X線撮影を定期的 (6ヶ月~1年毎) に行う。

・ 薬物治療

1. ビスフォスフォネート製剤を第1選択薬とする。

2. 活性型ビタミンD₃、ビタミンK₂は第2選択薬とする。

図3 我が国のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン (2004年度版)¹⁵⁾